

第5回基本政策部会 議事要旨

1. 日時

令和元年12月24日（火） 13:00～15:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、片岡委員、栗原委員、白坂委員、角南委員、常田委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、行松審議官、吉田参事官、星野参事官、中里参事官、森参事官、鈴木参事官、滝澤参事官

(3) オブザーバ

平内閣府副大臣、葛西宇宙政策委員長、折木宇宙政策委員、松本宇宙政策委員、山崎宇宙政策委員、山川 JAXA 理事長

(4) 有識者・関係団体

岩田日本経済研究センター理事長、篠原総合科学技術・イノベーション会議議員、経団連下村宇宙開発利用推進委員長、経団連原宇宙開発利用推進委員会企画部会長、経団連田熊宇宙開発利用推進委員会宇宙利用部会長、経団連渥美宇宙開発利用推進委員会企画部会委員

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 研究機関・関係団体ヒアリング

資料1に基づく一般社団法人 日本経済団体連合会（経団連）からの説明があり、以下の議論があった。

○委員より、「宇宙輸送分野の国際標準化に係る日本の課題」について質問があった。

●経団連より、「日本は ICAO などの民間の国際標準化に向けた会合に参加しているが、プレゼンスがまだ足りない、官民の交流ももっと必要である」との回答があった。

○委員より、「宇宙科学ミッションに対する民間企業の取組を活性化するために必要なことは何か」との質問があった。

●経団連より、「難しいミッションに対しては失敗を許容するなど、実用レベルに応じて成果を柔軟に考えていく必要がある」との回答があった。

○委員より、「最近の宇宙産業全体のトレンドを見ると、新興国市場や地上のユーザとの接点を有する企業・分野が伸びており、今後の日本の宇宙産業の成長を考える上では、そういった成長市場を取り込んでいくことを意識する必要がある」との意見があった。

資料2に基づく公益社団法人 日本経済研究センター 岩田理事長からの説明があり、以下の議論があった。

- 委員より、「将来の日本の産業構造はどう変わっていくのか」との質問があった。
- 岩田理事長より、「デジタル化の流れの中で、製造業の割合がより小さくなっていくと考えられる。例えば日本の製造業を支えてきた自動車産業ではMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）と呼ばれる大きな変革が起きており、今とは全く違う産業になっている可能性があるなど、大きな産業構造の変化が予想される」との回答があった。
- 委員より、「将来の世界におけるインドの存在感」について質問があった。
- 岩田理事長より、「インドは伝統的にソフトウェア分野の人材が豊富であり、今後デジタル化が進展する中で、将来的にも大きな存在感を発揮すると考えられる」との回答があった。

資料3に基づく総合科学技術・イノベーション会議（CSTI） 篠原議員からの説明があり、以下の議論があった。

- 委員より、「ソサエティ5.0が実現した場合のエネルギー消費はどのように考えるのか」との質問があった。
- 篠原議員より、「ソサエティ5.0の世界では、データ社会を支えるデータセンターの維持に大きなエネルギーが必要になると予想されており、これを技術革新により低減させることで全体としてエネルギー需要を抑えていくことが重要である」との回答があった。
- 委員より、「ソサエティ5.0の実現に向けて宇宙利用を社会実装していく上で大事なポイントは何か」との質問があった、
- 篠原議員より、「こんなことができる、だけでなく、費用対効果の面で利用者にメリットをもたらすレベルでできるかどうか重要と考えている」との回答があった。
- 委員より、「ソサエティ5.0の成果の海外への展開可能性」について質問があった。
- 篠原議員より、「ソサエティ5.0は国際的に共有されているSDGsの達成につながるものと考えており、これを意識して日本の技術を展開することが重要と考えている」との回答があった。
- 委員より、「SIPなどの政府全体の総合科学技術・イノベーション政策の具体的なプロジェクトとしっかり連携して、宇宙の活用をしっかりと検討していくことが重要である。また、同時に、宇宙産業の側においても、社会全体のシステムとのインターフェイスをしっかりと意識して今後の設計を考えていく必要がある。」といった意見があった。

以上